

完璧という概念を覆す
～カントリーサイン変更への道～



古屋 梓紗(こや あずさ)
北海道上富良野高等学校 2年

完璧という概念を覆す

～カントリーサイン変更への道～

古屋 梓紗



活動概要

活動の内容

4月20日に研究課題の確認や情報収集の準備をした。5月9日に役場とフラワーランドにインタビューをするため準備し、5月13日にインタビューを実施。5月25日からは小中高のアンケート準備をした。高校にはClassiでアンケートを配布し、小中学校には簡単なアンケートを作成後、配布した。7月20日にアンケートを回収し結果を分析。同時に1回目の街頭インタビューを実施し、カントリーサインの分析も行った。9月27日に上富良野町のカントリーサイン仮デザイン案を考え10月5日に2回目の街頭インタビューを行った。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴はカントリーサインの変更である。アンケートの結果、今のカントリーサインでは上富良野町の特徴を一目で理解してもらうには不十分であると考えている。カントリーサインを変更することで、車の走行中などに看板を見て上富良野町の特徴を知り、上富良野町に興味を持ってもらうきっかけになる。興味を持ち、上富良野町を訪れてもらうことで地域の活性化につながると考えている。

活動の成果

この活動の成果は上富良野町のカントリーサインを変えることである。カントリーサインを変えることで、一目で上富良野町の特徴を理解することができる。興味をもち、上富良野町を訪れることで地域の活性化につながる。上富良野町はきれいな景色やおいしい食べ物が多くある。養豚やホップ栽培にも力を入れている。一度訪れることで、再び上富良野町を訪れたいと考える人や、移住したいと考える人が増えるきっかけになる。

課題の設定と意図

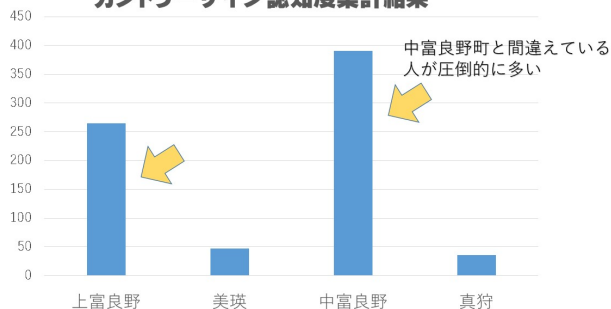
カントリーサインを見たときに誰が見ても上富良野町だとわかるようなデザインにすることである。それに向けカントリーサインを変更することを目標とした。なぜなら、上富良野町の特産物の認知度が高まると思ったからだ。5月に上富良野町の役場にカントリーサインの話聞きに行った際、「上富良野町のカントリーサインは完璧です」という話があった。しかし、私たちはカントリーサインだとラベンダーが判別しにくく、認知度の低いアカゾマツが描かれたりしてわかりにくいカントリーサインだったことから、アンケートを実施することにした。高校内でカントリーサインのアンケートをした結果、アカゾマツの認知度が低いことも分かった。また上富良野町のカントリーサインを選ぶ質問で多くの生徒は中富良野町のカントリーサインを選んでた。小・中学校のアンケートも同様に上富良野町ではないカントリーサインを選んでいる傾向にあった。アンケートの結果から、完璧と言われたカントリーサインに私たちは疑問を持った。このことから、誰が見ても上富良野町だとわかるようデザインにしようと考えた。

課題解決のための仮説と計画

私たちのグループの課題は上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるデザインに変えることである。ラベンダーとカントリーサインを研究のキーワードに、「上富良野町の特産品についての意識が高まる。上富良野町を知らない人も知る機会が増える。」この仮説を証明するため活動を進めた。①上富良野町の役場とフラワーランドかみふらのに話を聞きに行く。役場にはカントリーサインについての話を聞き、フラワーランドではラベンダーについての話を聞く。②上富良野町のカントリーサインを知っているか、上富良野町といえば何を連想するかなどを調べるために、6月下旬に高校内でカントリーサインについてのアンケートをとった。6月29日に上富良野町の小学校と中学校にアンケート用紙を配布。7月13日に街頭インタビューの準備を進める。そして小中高校のアンケートを回収した。③カントリーサインを変更した市町村について調べる。北海道内でカントリーサインを変更した市町村を調べ、変更までの経緯を調べた。④北海道内のカントリーサインについて調べる。北海道内のカントリーサインで用いられているデザインは何が一番多いのか調べた。⑤上富良野駅で街頭インタビューを実施。さらにアンケート結果を収集するため、カントリーサインについて町内の人に街頭インタビューを実施。このアンケート結果を元に上富良野町のカントリーサインの認知度の低さ、隣町の中富良野町のカントリーサインと間違えて覚えている人の多さについて改めて再確認。⑥新デザインの検討をする。今までの調査の結果を参考にカントリーサインの新デザインを何パターンか検討する。⑦カントリーサイン変更の資料を作成する。今までの情報をもとに、上富良野町長に提出資料を作成する



カントリーサイン認知度集計結果



活動で工夫できたこと

私達の活動の流れは、目標である上富良野町のカントリーサイン変更を実現させようと、まず自分たちがカントリーサインと上富良野町の町花であるラベンダーについて知るため、町役場とラベンダーを育てているフラワーランドにインタビューに行きました。次に、小学校、中学校、高校にカントリーサインについてのアンケートを取りました。はじめに高校へインタビューを取るべく、アンケート内容を考えました。できるだけ簡単になるように工夫し、アンケートは上富良野町と他の市町村を三つほど入れたクイズ形式にしました。アンケートの配布は普段連絡用に使用しているアプリケーションを活用しました。次に小学校と中学校には大きめの紙に高校と同じようカントリーサインのクイズを印刷し選んだカントリーサインの下にシールを貼ってもらうより簡単にアンケートを回答できるように工夫しました。アンケートの結果は上富良野町とよく似た中富良野町のカントリーサインにする人が多いという結果になりました。この後に最初の計画では町に向けてのアンケートを取るつもりでしたが、確実に町民や上富良野町にきている人の声を聞くため街頭インタビューを実施しました。結果はアンケートと同様上富良野町より中富良野町を選んだ人が多いという結果になりました。試行錯誤しながらアンケートの取り方や街頭インタビューなどを実施することができました。



活動で得た学び・気づき

今回の活動では、私達の住む上富良野町のカントリーサインを変えようという大きな目標があり、それを何とか実現するために今まで活動してきました。カントリーサインを変えようと考えた理由は、上富良野町のカントリーサインには町木と町花、それと上富良野町から見える山、十勝岳が描かれているデザインです。ですが、私達のグループにはこの木を知っている人がいなかったため「上富良野町の町木であるアカエゾマツはあまり知られていないのではないか」という考えが出てきました。そして次に現在上富良野町が推している名産品ラベンダーが隣の町である中富良野町のカントリーサインにもラベンダーが入っているため「上富良野町のカントリーサインと中富良野町のカントリーサインとで間違っているのでは」という考えが生まれました。この二つの考えを元に私達の活動の最終的な目標はカントリーサインを変えようとなりました。アンケートの作成では町の小学校、中学校、高校と三ヶ所でアンケートを実施しました。アンケートの許可を取らせてもらうため電話をしました。普段このような電話をすることがあまり無かったので、相手に上手く説明出来るよう手順も確認して電話をかけましたが、いざ本番となると緊張して聞くこと忘れたりなど失敗してしまったので今回の経験を今後活かせるようにしたいです。

今後の展望・新たな取組み

今回の活動では目標を達成するため、沢山のの人に協力してもらいアンケートやインタビューを実施することができました。まず最初のインタビューでは町役場とラベンダーを育てているフラワーランドさんに質問をさせてもらいカントリーサインについてやラベンダーについてなどいろいろなことを教えてもらうことが出来ました。学校から少し離れたフラワーランドへの移動する際に役場の方に車を出してもらえたのでありがたかったです。次の小学校、中学校に向けてのアンケートでは電話での許可取りやアンケート実施まで協力してもらいとてもいい結果を出すことが出来たので良かったです。アンケート作成や高校に向けてのアンケートでも高校の先生に協力していただき無事アンケートを実行することが出来ました。でも街頭インタビューでは町にいた方に話しかけお時間もらいインタビューに答えていただけただけで様々なご意見をいただくことが出来ました。このような、たくさんの方々の協力により目標に向けての活動を進めることが出来ました。今回の体験で私は、何かをしようと思えば人と人の協力が必要不可欠だと実感しました。今後、もし何か大きな課題がある時でもたくさんの方に協力してもらうことで乗り越えて課題を達成できるようにしていきたいです。そしてこれからはさまざまなことに関心を持ち人と関わり合えるような人生を過ごしていきたいと思いました。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	北海道
グループメンバー	氏名①	佐々木 海帆		氏名③	鈴木 流聖
	氏名②	若林 琉斗		氏名④	坂本 ゆう

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大雪青少年交流の家		修了日	2022/3/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	十勝岳ジオパークに関わる地域の素材についてインタビューを実施。そこから仮説を立ててフィールドワークにより検証し結果を発表した。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/12/16					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	上富良野高校		活動に関する助言		
	氏名	藤坂 智亜樹				
	所属	十勝岳ジオパーク推進協議会		活動に関する助言		
	氏名	十勝岳ジオパーク推進協議会の方々				
	所属					
氏名						
協力者総数	5名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 25 日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	15日	事後:ふりかえり・報告	4日
-----------	----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/20 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	上富良野高校および上富良野町内	計画作成、情報収集
6/15 ~ 11/9	②実践活動本番	上富良野高校および上富良野町内	アンケート、街頭インタビュー
9/20 ~ 9/20	②実践活動本番	上富良野高校	中間報告会と計画の修正
11/9 ~ 12/15	②実践活動本番	上富良野高校	データの整理・文責と発表準備
12/16 ~ 12/16	②実践活動本番	上富良野高校	地域探究ポスター発表会

完璧という概念を覆す
～カントリーサイン変更への道～



坂本 ゆう(さかもと ゆう)
北海道上富良野高等学校 2年

完璧という概念を覆す

～カントリーサイン変更への道～

坂本 ゆう



活動概要

活動の内容

4月20日に研究課題の確認や情報収集の準備をした。5月9日に役場とフラワーランドにインタビューをするため準備し、5月13日にインタビューを実施。5月25日からは小中高のアンケート準備をした。高校にはClassiでアンケートを配布し、小中学校には簡単なアンケートを作成後、配布した。7月20日にアンケートを回収し結果を分析。同時に1回目の街頭インタビューを実施し、北海道内のカントリーサインの分析も行った。9月27日に上富良野町のカントリーサイン仮デザイン案を考え10月5日に2回目の街頭インタビューを行った。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴はカントリーサインの変更である。アンケートの結果、今のカントリーサインでは上富良野町の特徴を一目で理解してもらうには不十分であると考え、カントリーサインを変更することで、車の走行中などに看板を見て上富良野町の特徴を知り、上富良野町に興味を持ってもらうきっかけになる。興味を持ち、上富良野町を訪れてもらうことで地域の活性化につながると考えている。

活動の成果

この活動の成果は上富良野町のカントリーサインを変えることである。カントリーサインを変えることで、一目で上富良野町の特徴を理解することができる。興味をもち、上富良野町を訪れることで地域の活性化につながる。上富良野町はきれいな景色やおいしい食べ物が多くある。養豚やホップ栽培にも力を入れている。一度訪れることで、再び上富良野町を訪れたいと考える人や、移住したいと考える人が増えるきっかけになる。

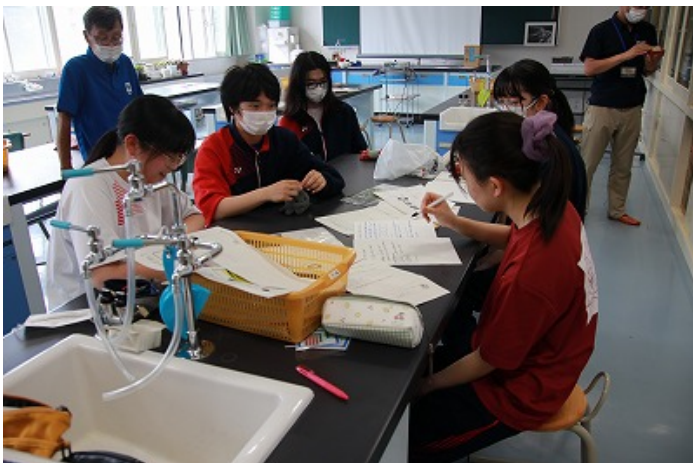
課題の設定と意図

「カントリーサインを見たときに誰が見ても上富良野町だとわかるようなデザインにすることである。それに向けカントリーサインを変更することを目標とした。なぜなら、上富良野町の特産物の認知度が高まると思ったからだ。5月に上富良野町の役場にカントリーサインの話聞きに行った際、「上富良野町のカントリーサインは完璧です」という話があった。しかし、私たちはカントリーサインだとラベンダーが判別しにくく、認知度の低いエゾアカマツが描かれたりしてわかりにくいカントリーサインだったことから、アンケートを実施することにした。高校内でカントリーサインのアンケートをした結果、アカエゾマツの認知度が低いことも分かった。また上富良野町のカントリーサインを選ぶ質問で多くの生徒は中富良野町のカントリーサインを選んでた。小・中学校のアンケートも同様に上富良野町ではないカントリーサインを選んでる傾向にあった。アンケートの結果から、完璧と言われたカントリーサインに私たちは疑問を持った。このことから、誰が見ても上富良野町だとわかるようデザインにしようと考えた。

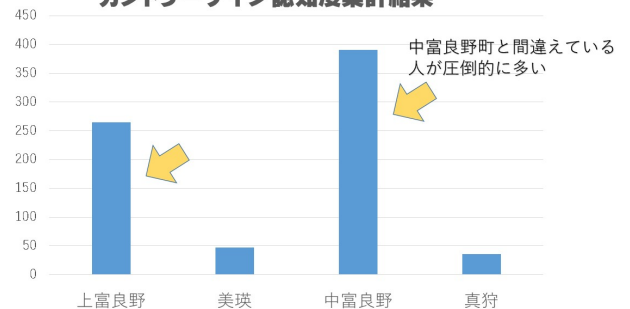
「

課題解決のための仮説と計画

私たちのグループの課題は上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるデザインに変えることである。ラベンダーとカントリーサインを研究のキーワードに、「上富良野町の特産品についての意識が高まる。上富良野町を知らない人も知る機会が増える。」この仮説を証明するため活動を進めた。①上富良野町の役場とフラワーランドかみふらのに話を聞きに行く。役場にはカントリーサインについての話を聞き、フラワーランドではラベンダーについての話を聞く。②上富良野町のカントリーサインを知っているか、上富良野町といえば何を連想するかなどを調べるために、6月下旬に高校内でカントリーサインについてのアンケートをとった。6月29日に上富良野町の小学校と中学校にアンケート用紙を配布。7月13日に街頭インタビューの準備を進める。そして小中高校のアンケートを回収した。③カントリーサインを変更した市町村について調べる。北海道内でカントリーサインを変更した市町村を調べ、変更までの経緯を調べた。④北海道内のカントリーサインについて調べる。北海道内のカントリーサインで用いられているデザインは何が一番多いのか調べた。⑤上富良野駅で街頭インタビューを実施。さらにアンケート結果を収集するため、カントリーサインについて町内の人に街頭インタビューを実施。このアンケート結果を元に上富良野町のカントリーサインの認知度の低さ、隣町の中富良野町のカントリーサインと間違えて覚えている人の多さについて改めて再確認。⑥新デザインの検討をする。今までの調査の結果を参考にカントリーサインの新デザインを何パターンか検討する。⑦カントリーサイン変更の資料を作成する。今までの情報をもとに、上富良野町長に提出資料を作成する

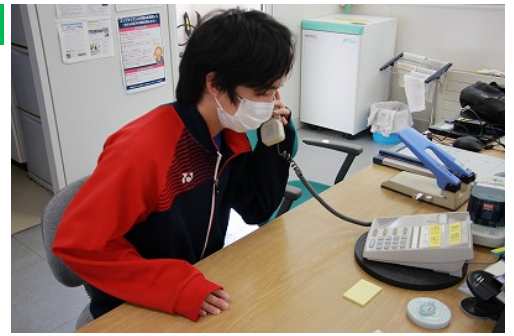


カントリーサイン認知度集計結果



活動で工夫できたこと

活動で工夫できたことは研究テーマであるカントリーサインというキーワードだ。ラベンダーという言葉からカントリーサインに繋がったのは班での話し合いを通して生まれたものだからこそオリジナル感と新鮮さもあつ、楽しみながら研究を進められることができた。ラベンダーとカントリーサインだけでなく、上富良野のことについての知識も薄かったので学ぶことや感じることも多くて身になったなと思う。上富良野町をもっと活性化するために上富良野のカントリーサインのデザインを変更することはなかなか出てこないアイデアだし、実際に変更まで至るかはまだわからないが、楽しみながらも研究を進めることができたのでよかった。上富良野の小中学校でカントリーサインについてのアンケートを班のノートにまとめたり、街頭インタビューをしたり自分にできることを行うことができたと思う。



活動で得た学び・気づき

この地域探究の活動を通して、今まで知らなかった上富良野町に出会うことができた。私の班ではカントリーサインについて研究を進め、町の小中高生にアンケートをとったり、街頭インタビューを行ったりした。その中で気づいたことは上富良野のカントリーサインについて知らない人が思ったよりも多かったということ。また、それ以前にカントリーサインについて知らない人も多いということ。この活動から自分の住んでいる町に興味を持っている人の少なさについて知ることができた。それと同時に町民の人だけでなく、町外の人にも上富良野のことについて興味を持ってもらうのはどうしたらいいのかということにも目を向けることができた。初めてカントリーサインについて調べてみると、自分の知らないことがたくさんあってカントリーサインについての知識が増えたとともに、カントリーサインについての興味が高まったと感じる。実際に、他の町に行くと、この町のカントリーサインはどんなデザインなんだろう、またどんな意味が込められているのだろうと考えるようになった。上富良野のカントリーサインにもどのような意味が込められているのか調べてみると、上富良野で有名なラベンダーや町木であるアカエゾマツ、十勝岳などが描かれているとカントリーサインの深さについてもここで知ることができた。北海道にあるすべてのカントリーサインに描かれているものも調べてみると特産品や名所、その地域のキャラクターなどが描かれており、見ているだけでもその地域のことについて知ることができたような気がしてより地域への興味が高まった。最後にこの地域探究を通して感じたことは、自分がどれだけ地域へ無関心だったのかを改めて感じることで上富良野についての興味を持てるようになった。

今後の展望・新たな取組み

この地域探究の活動を通して学んだこと、考えたこと、感じたことはたくさんある。まずは、この地域探究の題材でもある上富良野について。研究を進めていると、今までは触れてこなかった上富良野を知ったり、感じたりすることができた。グループのテーマでもあった、ラベンダーとカントリーサインについては初めて知ることが多くとても新鮮だった。上富良野のラベンダーそしてカントリーサインの歴史について話を聞いたり、調べたりしてみるとこの地域探究をしていなかったらきつと知ることにはなかつたろうなと思うような内容が多くて上富良野の地域探究ができてよかったなと思う。街頭インタビューの時に、実際に町民の方と関わってみて、意見や思いを聞くことができて学ぶことがたくさんあり、それに加えて改めて人と関わる楽しさにも気づくことができてよかったなと感じる。この地域探究を通して、上富良野に対しての興味が高まったとともに、自分が住んでいる中富良野はどうなんだろうと発展して考えるようにもなった。この活動がなければきっとこんな風に地域に関心を持つことはなかつたろうなと感じる。この活動では、テーマに対しての課題を見つけ、それを解決するためにはどのようなことを行えば良いか、どのようなことをいつどこでやれば良いのかなどを全部ゼロから自分たちで考えて行動して結果を出してという大変さややりがいについても実際に地域探究を通して感じることもできた。勉強の場面でもこの活動のように自分なりの考えを出せるような人になりたいなと感じた。今回の地域探究を学校生活だけでなく、進学先や就職先でも活かされたいなと感じた。これから社会に出ていくにあたってこの探究のようにきれいに進めることはできないかもしれないが、課題に対してどのような解決策を考えなければならぬのかをよく考えて、課題解決に向けて自分なりの意見が出せる人になればいいなと思う。改めて、この地域探究の活動を行うことができてとても良い経験になったなと感じている。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	
グループメンバー	氏名①	佐々木 海帆		氏名③	鈴木 琉聖
	氏名②	古屋 梓紗		氏名④	若林 琉斗

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大雪青少年交流の家		修了日	2022/3/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	十勝岳ジオパークに関わる地域の素材についてインタビューを実施。そこから仮説を立ててフィールドワークにより検証し結果を発表した。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/12/16					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	上富良野高校		活動に関する助言		
	氏名	藤坂智亜樹				
	所属	十勝岳ジオパーク推進協議会		活動に関する助言		
	氏名	十勝岳ジオパーク推進協議会の方々				
	所属					
氏名						
協力者総数	5名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 25 日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	15日	事後:ふりかえり・報告	4日
-----------	----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/20 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	上富良野高校	計画作成、情報収集
6/15 ~ 11/9	②実践活動本番	上富良野高校	アンケート、街頭インタビュー
9/20 ~ 9/20	②実践活動本番	上富良野高校	中間報告会と計画の修正
11/9 ~ 12/15	②実践活動本番	上富良野高校	データの整理・分析と発表準備
12/16 ~ 12/16	②実践活動本番	上富良野高校	地域探究ポスター発表会

完璧という概念を覆す
～カントリーサイン変更への道～



佐々木 海帆(ささきみほ)
北海道上富良野高等学校 2年

完璧という概念を覆す

～カントリーサイン変更への道～

佐々木 海帆



活動概要

活動の内容

4月20日に研究課題の確認や情報収集の準備をした。5月9日に役場とフラワーランドにインタビューをするため準備し、5月13日にインタビューを実施。5月25日からは小中高のアンケート準備をした。高校にはClassiでアンケートを配布し、小中学校には簡単なアンケートを作成後、配布した。7月20日にアンケートを回収し結果を分析。同時に1回目の街頭インタビューを実施し、カントリーサインの分析も行った。9月27日に上富良野町のカントリーサイン仮デザイン案を考え10月5日に2回目の街頭インタビューを行った。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴はカントリーサインの変更である。アンケートの結果、今のカントリーサインでは上富良野町の特徴を一目で理解してもらうには不十分であると考えている。カントリーサインを変更することで、車の走行中などに看板を見て上富良野町の特徴を知り、上富良野町に興味を持ってもらうきっかけになる。興味を持ち、上富良野町を訪れてもらうことで地域の活性化につながると考えている。

活動の成果

この活動の成果は上富良野町のカントリーサインを変えることである。カントリーサインを変えることで、一目で上富良野町の特徴を理解することができる。興味をもち、上富良野町を訪れることで地域の活性化につながる。上富良野町はきれいな景色やおいしい食べ物が多くある。養豚やホップ栽培にも力を入れている。一度訪れることで、再び上富良野町を訪れたいと考える人や、移住したいと考える人が増えるきっかけになる。

課題の設定と意図

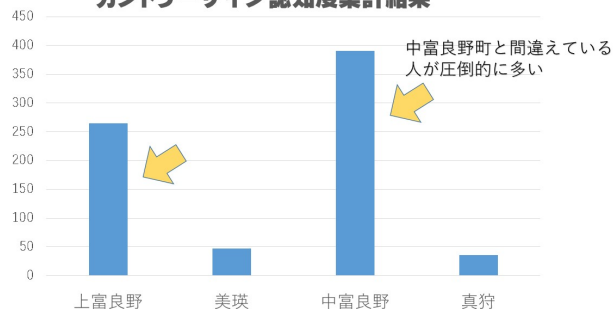
カントリーサインを見たときに誰が見ても上富良野町だとわかるようなデザインにすることである。それに向けカントリーサインを変更することを目標とした。なぜなら、上富良野町の特産物の認知度が高まると思ったからだ。5月に上富良野町の役場にカントリーサインの話聞きに行った際、「上富良野町のカントリーサインは完璧です」という話があった。しかし、私たちはカントリーサインだとラベンダーが判別しにくく、認知度の低いアカゾマツが描かれたりしてわかりにくいカントリーサインだったことから、アンケートを実施することにした。高校内でカントリーサインのアンケートをした結果、アカゾマツの認知度が低いことも分かった。また上富良野町のカントリーサインを選ぶ質問で多くの生徒は中富良野町のカントリーサインを選んでた。小・中学校のアンケートも同様に上富良野町ではないカントリーサインを選んでいる傾向にあった。アンケートの結果から、完璧と言われたカントリーサインに私たちは疑問を持った。このことから、誰が見ても上富良野町だとわかるようデザインにしようと考えた。

課題解決のための仮説と計画

私たちのグループの課題は上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるデザインに変えることである。ラベンダーとカントリーサインを研究のキーワードに、「上富良野町の特産品についての意識が高まる。上富良野町を知らない人も知る機会が増える。」この仮説を証明するため活動を進めた。①上富良野町の役場とフラワーランドかみふらのに話を聞きに行く。役場にはカントリーサインについての話を聞き、フラワーランドではラベンダーについての話を聞く。②上富良野町のカントリーサインを知っているか、上富良野町といえば何を連想するかなどを調べるために、6月下旬に高校内でカントリーサインについてのアンケートをとった。6月29日に上富良野町の小学校と中学校にアンケート用紙を配布。7月13日に街頭インタビューの準備を進める。そして小中高校のアンケートを回収した。③カントリーサインを変更した市町村について調べる。北海道内でカントリーサインを変更した市町村を調べ、変更までの経緯を調べた。④北海道内のカントリーサインについて調べる。北海道内のカントリーサインで用いられているデザインは何が一番多いのか調べた。⑤上富良野駅で街頭インタビューを実施。さらにアンケート結果を収集するため、カントリーサインについて町内の人に街頭インタビューを実施。このアンケート結果を元に上富良野町のカントリーサインの認知度の低さ、隣町の中富良野町のカントリーサインと間違えて覚えている人の多さについて改めて再確認。⑥新デザインの検討をする。今までの調査の結果を参考にカントリーサインの新デザインを何パターンか検討する。⑦カントリーサイン変更の資料を作成する。今までの情報をもとに、上富良野町長に提出資料を作成する。



カントリーサイン認知度集計結果



活動で工夫できたこと

活動で工夫した点はたくさんあります。まず中間発表のためにプレゼンテーションソフトで作ったプレゼン画面です。わたしたちの班が一番いいと聞き手の目を引くようなプレゼン画面であり、良い発表だったと思います。このように感じたのは、最後に質疑応答があった際に質問もありましたが、なにより内容をほめていただきました。また班員が資料をあまりみないで発表することで相手の反応をうかがいながらできたと思います。質疑応答では、しっかりと応答することができたのは内容について班員が理解してよく活動を行っていたからだと思います。

二つ目に工夫した点は、班員全員がきちんと活動を行ったことです。特にまちの街頭インタビューでは一人ずつインタビューを行いました。駅の近くや、スーパー、公園など人が多く来る場所で行いました。

三つ目はアンケート用紙についてです。アンケートは町内の小・中学校・高校に答えてもらいました。小・中学校ではアンケート用紙にするのではなく、「上富良野町のカントリーサインはどれか」という質問に対して、似ている市町村のカントリーサインの画像を貼り付け、シールを張り付けてもらうやり方で行ないました。

結果私たちも集計に時間がかからず、かつ小・中学生には取り組みやすいアンケートの取り方だったと思います。今回の探究活動を通して、私は以前にはなかったリーダーシップや判断力、責任感を感じることができました。これからの発表にむけてさらに良いものを作れるように頑張ります。



活動で得た学び・気づき

探究活動で得た学びは、一人の力だけでは活動できないということです。今までこのような活動があったときに、一人で解決しようとする癖があり、なかなかグループの人に指示をしたりやってもらうことができませんでした。しかし、今回の探究活動で班長になり、一人ひとりなにかできるように割り振りをしたりしました。特に以前と変わった点はチームの人に相談することが増えました。相談することで自分一人では考えられなかったことや意見を聞くことができ、よりよい活動につながっていききました。また、私たちの班の活動目的は「カントリーサインの変更を提案する」ということですが、変更するのにも役場の人に聞きに行ったり、地域の人の力を借りることであったり、費用の面などいろいろな課題があります。気づいた点ではただ地元の発展をするために活動するのではなく、地元の人々の取り組みや街の雰囲気など地元について学ぶことも大切だと感じました。また、地元について知らなければ説得力がないと感じました。

私たちはカントリーサイン変更提案のために町内にアンケートを実施しました。小・中学校・高校の結果や街頭インタビューの結果から分かったことは、隣町のカントリーサインと間違えている人がとても多いということが読み取れました。これは隣町と特産物や観光が似ているからだだと思います。わたしたちはこの結果を踏まえて隣町とは違う良さを探し目で理解してもらえるカントリーサインを変更したいと考えています。これを行うことで地域の人々が上富良野町について考えることが増えたり、上富良野町に訪れる予定がなかった人にも寄ってってもらえるのではないかと考えています。このように探究活動を通して、物事を分析する力であったり、チームでの協力、地域を見直すといったことを学ぶ機会になりました。

今回の活動を通して、グループで協力して活動を行うことでよりよいものを作れるということや実際に町の人にインタビューをして上富良野町についてもっといろいろな人が知ってもらえるように活動していきたいと思いました。

今後の展望・新たな取り組み

わたしはこの探究活動を通して、リーダーシップや臨機応変に対応できる力など沢山の経験値を得ました。もし、このような活動がなければ以前のわたしはここまで成長できなかったと思うし、社会に出たとしても自分の意見を相手に伝えることも難しかったと思います。なのでこの活動は私自身の成長を感じることができる良い経験です。特に、変わったという点でいえば人とかかわる仕事であったり地域の人に役に立つ仕事をしたいと考えるようになりました。企画などを考えたり人を笑顔にしたいという気持ちがありました。なので将来的には公務員や医療系に就きたいと考えています。また、今頑張っていることは検定を取得することです。たくさんの検定を取ることで自分ができる活動の幅も増えるだろうと思ったからです。活動の幅が増えるということは、人の役に立てる場面が多くなると思うので、検定取得にも力を入れようと思いました。

社会とのかかわりという面では、礼儀についても学びました。今回の活動では二か所フィールドワークを行いました。その際に、電話をかけて訪問する確認を行うのですが、電話はとても緊張しましたし、敬語が正しく使えているかも不安でした。また、訪問した際にも挨拶やお礼の言葉を意識することで、社会人に向けての第一歩になったと思います。社会に出る前に礼儀やマナーなどの経験をすることで、常識がわかる人になれると思います。

今の時代は、スマホなどの普及で直接コミュニケーションをとることが減ってきています。スマホはとても便利ですが、直接人と話すことが減ったり、文字だけでは表せない感情や顔の表情など、今の現代の人はスマホの普及により自分たちの意見を伝えることが難しくなっていると感じます。しかし、今回の取り組みは考える力であったり社会人になるために必要な活動であると思います。また、社会にでて必要とされる社会人基礎力というものがあります。一つはアクション(主体性・働きかけ力・実行力)二つ目はシンキング(課題発見力・計画力・創造力)チームワーク力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)があります。このように、社会人に必要な力の半分以上を探究活動で得られるとおもいます。私自身、主体性や創造力、柔軟性などできていないことが多く、高校生は特に探究活動を通して学ぶことで社会に出る時に大いに役に立つと思います。

探究活動は、地域について知れることや、自分たちの心身の成長につながるとても良い活動だと思いました。

わたしは中学生から部活動で行っている除雪ボランティアに参加していますが、社会人になってからも自分から何か地域や人のために行動できる人になりたいです。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	
グループメンバー	氏名①	古屋梓紗		氏名③	若林琉斗
	氏名②	鈴木琉聖		氏名④	坂本ゆう

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大雪青少年交流の家		修了日	2022/3/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	十勝岳ジオパークに関わる地域の素材についてインタビューを実施。そこから仮説を立ててフィールドワークにより検証し結果を発表した。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/12/16					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	上富良野高校		活動に関する助言		
	氏名	藤坂 智亜樹				
	所属	十勝岳ジオパーク推進協議会		活動に関する助言		
	氏名	十勝岳ジオパーク推進協議会の方々				
	所属					
氏名						
協力者総数	5名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 25 日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	15日	事後:ふりかえり・報告	4日
-----------	----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/20 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	上富良野高等学校および上富良野町内	計画作成、情報収集(インタビュー)
6/15 ~ 11/9	②実践活動本番	上富良野高校および上富良野町内	アンケート、街頭インタビュー
9/20 ~ 9/20	②実践活動本番	上富良野高校	中間報告会と計画の修正
11/9 ~ 12/5	②実践活動本番	上富良野高校	データの整理・分析と発表準備
12/16 ~ 12/16	②実践活動本番	上富良野高校	地域探究ポスター発表会

完璧という概念を覆す
～カントリーサイン変更への道～



鈴木 琉聖(すずき りゅうせい)
北海道上富良野高等学校 2年

完璧という概念を覆す

～カントリーサイン変更への道～

鈴木 琉聖



活動概要

活動の内容

4月20日に研究課題の確認や情報収集の準備をした。5月9日に役場とフラワーランドにインタビューをするため準備し、5月13日にインタビューを実施。5月25日からは小中高のアンケート準備をした。高校にはClassiでアンケートを配布し、小中学校には簡単なアンケートを作成後、配布した。7月20日にアンケートを回収し結果を分析。同時に1回目の街頭インタビューを実施し、カントリーサインの分析も行った。9月27日に上富良野町のカントリーサイン仮デザイン案を考え10月5日に2回目の街頭インタビューを行った。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴はカントリーサインの変更である。アンケートの結果、今のカントリーサインでは上富良野町の特徴を一目で理解してもらうには不十分であると考えた。カントリーサインを変更することで、車の走行中などに看板を見て上富良野町の特徴を知り、上富良野町に興味を持ってもらうきっかけになる。興味を持ち、上富良野町を訪れてもらうことで地域の活性化につながると考えている。

活動の成果

この活動の成果は上富良野町のカントリーサインを変えることである。カントリーサインを変えることで、一目で上富良野町の特徴を理解することができる。興味を持ち、上富良野町を訪れることで地域の活性化につながる。上富良野町はきれいな景色やおいしい食べ物が多くある。養豚やホップ栽培にも力を入れている。一度訪れることで、再び上富良野町を訪れたいと考える人や、移住したいと考える人が増えるきっかけになる。

課題の設定と意図

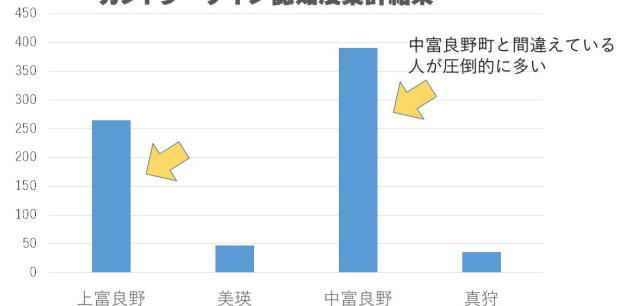
カントリーサインを見たときに誰が見ても上富良野町だとわかるようなデザインにすることである。5月上富良野町の役場にカントリーサインの話を聞きに行った際、「上富良野町のカントリーサインは完璧です」という話があった。上富良野町のカントリーサインには十勝岳、ラベンダー、アカエゾマツが描かれている。カントリーサインを初めて見たとき、私たちのグループではこの木が何の木なのかはわからなかった。ジオパークの方に聞くと、この木はアカエゾマツということが分かった。アカエゾマツは上富良野町の町の木となっている。高校内でカントリーサインのアンケートをした結果、アカエゾマツの認知度が低いことも分かった。また上富良野町のカントリーサインを選ぶ質問で多くの生徒は中富良野町のカントリーサインを選んでた。小・中学校のアンケートも同様に上富良野町ではないカントリーサインを選んでいる傾向にあった。アンケートの結果から、完璧と言われたカントリーサインに私たちは疑問を持った。上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるようなデザインに変更し、上富良野町の特徴がわかるようなデザインを考えることにした。

課題解決のための仮説と計画

私たちのグループの課題は上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるデザインに変えることである。カントリーサインを変えることで上富良野町を知らない人でも知ってもらえるきっかけになり、上富良野町を訪れる機会が増え、地域の活性化につながるのではないかと仮説を立てた。カントリーサインの変更のための根拠を示した資料を作成し、上富良野町の町長に提言をすることにした。資料作成に伴い以下のような活動計画を立てた。①上富良野町の役場とフラワーランドかみふらのに話を聞きに行く。役場にはカントリーサインについての話を聞き、フラワーランドではラベンダーについての話を聞く。②上富良野町の小・中・高でカントリーサインのアンケートを実施する。上富良野町のカントリーサインを知っているか、上富良野町といえば何を連想するかなどを調べる。③カントリーサインを変更した市町村について調べる。北海道内でカントリーサインを変更した市町村を調べ、変更までの経緯を調べた。④北海道内のカントリーサインについて調べる。北海道内のカントリーサインで用いられているデザインは何が一番多いのか調べた。⑤上富良野町で街頭インタビューを行う。日の出公園に来ている方に対して上富良野町のカントリーサインをしているかのインタビューを行った。また、上富良野町外の方には上富良野町の感想などを聞いた。⑥新デザインの検討をする。今までの調査の結果を参考にカントリーサインの新デザインを何パターンか検討する。⑦カントリーサイン変更の資料を作成する。今までの情報をもとに、上富良野町長に提出資料を作成する



カントリーサイン認知度集計結果



活動で工夫できたこと

私たちの班が今回の地域探究活動で工夫できたところはアンケート方法だと考える。町内の小学校と中学校に向けてはいくつかのカントリーサインが描かれた用紙を配布し、その中から上富良野町のカントリーサインだと思うものを選んで、シールを貼ってもらうようにした。そうすることで、知らない、わからないなどの回答や文字が読みにくいといったこともないのでも正確な集計を行なうことができた。上富良野町高校に向けてはClassiという学校で使っているアプリケーション内のアンケート機能を利用して、上富良野町のカントリーサインはどれだと思うかを選んでもらうということだけではなく、カントリーサインに追加したらよいと思うものはなにかも書いてもらった。ここでは、ラベンダーという意見が多かったが、他にも色々な意見があったので、上富良野町のカントリーサインの新しいデザイン案を作るときに参考になった。街頭インタビューでは、上富良野町に住んでいる人や観光客から直接上富良野町やカントリーサインについての意見やお話を聞くことができた。上富良野町の景色の素晴らしさや上富良野町に対するイメージを聞くことができたのは街頭インタビューを行なってよかったと思えるところだ。このようなアンケートからわかった結果をグラフにしてまとめたことで、上富良野町のカントリーサインがあまり知られていないということや、他の町のカントリーサインを上富良野町だと思って選んでいる人が多かったということが目で見てわかりやすくなったと思う。



活動で得た学び・気づき

わたしは今回の地域探究活動で、上富良野町のラベンダーやそのほかの特産品、カントリーサインのことなどを知ることができた。中学までは富良野市にいたので、この活動が始める前は、あまり上富良野町のことに詳しくなく、ラベンダーが有名な事くらいしか知らなかった。しかし、そのラベンダーは隣町でも有名なので上富良野町が他の町より優れたところはどこなのかがあまりわかっていなかった。そこで、上富良野町役場とフラワーランドに行き、インタビューをさせていただいたところ、上富良野町は北海道内でのラベンダー発祥の地であることや、最初は香料として利用するために育てられていたことなど、町とラベンダーの関係性や歴史を教えていただいた。そして、他の町では見られない上富良野町でのラベンダーの景色のことなどたくさんのお話を教えていただき、上富良野町で長い間ラベンダーが愛されている理由がわかった。そして、そのときに上富良野町のカントリーサインについてのお話を聞かせていただいた。上富良野町のカントリーサインにはアカエゾマツ、十勝岳、ラベンダーが描かれているが、一番目立っていたのはアカエゾマツだった。私は、アカエゾマツの存在をここで初めて知った。アカエゾマツは上富良野町が泥流による被害を被った後に親しまれていたということがわかったが、現在はあまり馴染みがない。カントリーサインは町の入り口など様々なところで使われており、今まで何度も目にしていたのに、そこに描かれている木の名前や描かれている理由を今まで気にしたことがなく、調べようと思ったこともなかった。今まで何気なく見ていたものにもしっかりと意味や歴史があるのだと認識させられた。しかし、町のことを知ってもらうきっかけになるべきカントリーサインに描かれるものとして適切かどうかを疑問に思った。そこで、実際に町の小学校、中学校には用紙にシールを張ってもらう方式で、高校ではClassiというアプリケーション内のアンケート機能を用いて、アンケートを実施した。その後、街頭インタビューを行なったところ地元の人でも自分たちの町のカントリーサインを知らないという人が多かった。中でも、ラベンダーが目立っているデザインのカントリーサインを上富良野町だと思って選んだ人が多かった。また、アカエゾマツを認知していないという意見も多数聞こえてきた。やはり、地元の人でも、上富良野町には木よりもラベンダーのイメージが強いのだと知った。上富良野町役場の人はこのカントリーサインを完璧だと言っていたが町の人からの認知度が低い木が描かれているデザインを完璧とは言えないと思った。そして、上富良野町を多くの人に知ってもらえて、興味を持ってもらえるものにした方がよいと考える。

今後の展望・新たな取組み

わたしは今回の地域探究活動を行なったことで、上富良野町のことを考える機会が増えた。わたしは上富良野町には住んでいないので、地域探究活動を行う前は、上富良野町についてはラベンダーが有名という事くらいしか知識がなく、他のことはあまりよく知らなかった。しかし、活動を進めていくうちに上富良野町にはラベンダー以外にもたくさんの特産品や名所などのよいところがあるということを知ることになり、上富良野町への理解を深めることができた。なので、これからも引き続き、上富良野町がよりよくなるにはどうしたらよいのかを考えつつ、今後も上富良野町のことを知っていくための行動をしていきたいと思った。そして、カントリーサインのことも今回の活動を通して知っていくこととなった。今まではカントリーサインを見たことはあっても、町の入り口にある絵くらいの認識でしかいなかったのだが、調べてみるとカントリーサインにはその町の特産品や名所などが描かれることでその町の魅力をひと目でわかりやすくしており、興味や関心をもってもらうために重要な役割を果たしているということがわかった。そして、上富良野町のカントリーサインにはアカエゾマツ、十勝岳、ラベンダーが描かれている。しかし、カントリーサインに描かれているというのに、アカエゾマツは地元の人からもあまり知られていないような存在だということがわかった。そんな上富良野町の人にもあまり知られていないようなアカエゾマツは町の魅力を伝えるべきカントリーサインに描かれるにはふさわしくないのではないかと考えた。なので、今後はメンバーの人と共に上富良野町にカントリーサインを変更した方がよいと思っているということやその理由、アンケート結果などを伝え、カントリーサインの新しいデザイン案を提出したいと思う。提言したことで、もし上富良野町のカントリーサインを変更することができたら、上富良野町の正しい魅力が多くの人に伝わるようになるので、興味を持ってくれる人が増えたり、観光に訪れる人が増えると思う。そうなることで、上富良野町が発展していき、よりよい町になることに繋がると考えている。また、カントリーサインを変更できるところまではいかなかったとしても、上富良野町に、町民にはアカエゾマツをあまり知られていないということや上富良野町はラベンダーのイメージが強いということを伝えることで今後、町が行なう広報活動などの取り組みにもよい影響があるのではないかと考える。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	
グループメンバー	氏名①	若林 琉斗		氏名③	古屋 梓紗
	氏名②	佐々木 海帆		氏名④	坂本 ゆう

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大雪青少年交流の家		修了日	2022/3/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	十勝岳ジオパークに関わる地域の素材についてインタビューを実施。そこから仮説を立ててフィールドワークにより検証し結果を発表した。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/12/16					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	上富良野高校		活動に関する助言		
	氏名	藤坂 智亜樹				
	所属	十勝岳ジオパーク推進協議会		活動に関する助言		
	氏名	十勝岳ジオパーク推進協議会の方々				
	所属					
氏名						
協力者総数	5名					

3. 実践活動の記録

(1) 総活動日数 全 25 日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	15日	事後:ふりかえり・報告	4日
-----------	----	-----------	-----	-------------	----

(2) 活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3) 主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/20 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	上富良野高校および上富良野町内	計画作成、情報収集(インタビュー)
6/15 ~ 11/9	②実践活動本番	上富良野高校および上富良野町内	アンケート、街頭インタビュー
9/20 ~ 9/20	②実践活動本番	上富良野高校	中間報告会と計画の修正
11/9 ~ 12/15	②実践活動本番	上富良野高校	データの整理・分析と発表準備
12/16 ~ 12/16	②実践活動本番	上富良野高校	地域探究ポスター発表会

完璧という概念を覆す
～カントリーサイン変更への道～



若林 琉斗(わかばやし りゅうと)
北海道上富良野高等学校 2年

完璧という概念を覆す

～カントリーサイン変更への道～

若林 琉斗



活動概要

活動の内容

4月20日に研究課題の確認や情報収集の準備をした。5月9日に役場とフラワーランドにインタビューをするため準備し、5月13日にインタビューを実施。5月25日からは小中高のアンケート準備をした。高校にはClassiでアンケートを配布し、小中学校には簡単なアンケートを作成後、配布した。7月20日にアンケートを回収し結果を分析。同時に1回目の街頭インタビューを実施し、カントリーサインの分析も行った。9月27日に上富良野町のカントリーサイン仮デザイン案を考え10月5日に2回目の街頭インタビューを行った。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴はカントリーサインの変更である。アンケートの結果、今のカントリーサインでは上富良野町の特徴を一目で理解してもらうには不十分であると考えている。カントリーサインを変更することで、車の走行中などに看板を見て上富良野町の特徴を知り、上富良野町に興味を持ってもらうきっかけになる。興味を持ち、上富良野町を訪れてもらうことで地域の活性化につながると考えている。

活動の成果

この活動の成果は上富良野町のカントリーサインを変えることである。カントリーサインを変えることで、一目で上富良野町の特徴を理解することができる。興味を持ち、上富良野町を訪れることで地域の活性化につながる。上富良野町はきれいな景色やおいしい食べ物が多くある。養豚やホップ栽培にも力を入れている。一度訪れることで、再び上富良野町を訪れたいと考える人や、移住したいと考える人が増えるきっかけになる。

課題の設定と意図

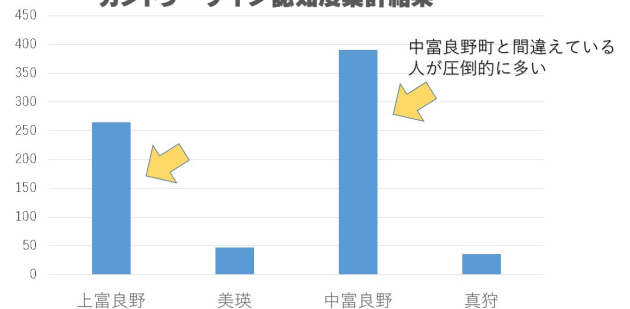
カントリーサインを見たときに誰が見ても上富良野町だとわかるようなデザインにすることである。5月に上富良野町の役場にカントリーサインの話聞きに行った際、「上富良野町のカントリーサインは完璧です」という話があった。上富良野町のカントリーサインには十勝岳、ラベンダー、アカエゾマツが描かれている。カントリーサインを初めて見たとき、私たちのグループではこの木が何の木なのかはわからなかった。ジオパークの方に聞くと、この木はアカエゾマツということが分かった。アカエゾマツは上富良野町の町の木となっている。高校内でカントリーサインのアンケートをした結果、アカエゾマツの認知度が低いことも分かった。また上富良野町のカントリーサインを選ぶ質問で多くの生徒は中富良野町のカントリーサインを選んでた。小・中学校のアンケートも同様に上富良野町ではないカントリーサインを選んでいる傾向にあった。アンケートの結果から、完璧と言われたカントリーサインに私たちは疑問を持った。上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるようなデザインに変更し、上富良野町の特徴がわかるようなデザインを考えることにした。

課題解決のための仮説と計画

私たちのグループの課題は上富良野町のカントリーサインを誰が見てもわかるデザインに変えることである。ラベンダーとカントリーサインを研究のキーワードに、「上富良野町の特産品についての意識が高まる。上富良野町を知らない人も知る機会が増える。」この仮説を証明するため活動を進めた。①上富良野町の役場とフラワーランドかみふらのに話を聞きに行く。役場にはカントリーサインについての話を聞き、フラワーランドではラベンダーについての話を聞く。②上富良野町のカントリーサインを知っているか、上富良野町といえば何を連想するかなどを調べるために、6月下旬に高校内でカントリーサインについてのアンケートをとった。6月29日に上富良野町の小学校と中学校にアンケート用紙を配布。7月13日に街頭インタビューの準備を進める。そして小中高校のアンケートを回収した。③カントリーサインを変更した市町村について調べる。北海道内でカントリーサインを変更した市町村を調べ、変更までの経緯を調べた。④北海道内のカントリーサインについて調べる。北海道内のカントリーサインで用いられているデザインは何かが一番多いのか調べた。⑤上富良野町で街頭インタビューを実施。さらにアンケート結果を収集するため、カントリーサインについて町内の人に街頭インタビューを実施。このアンケート結果を元に上富良野町のカントリーサインの認知度の低さ、隣町の中富良野町のカントリーサインと間違えて覚えている人の多さについて改めて再確認。



カントリーサイン認知度集計結果



活動で工夫できたこと

今回の活動で工夫できたことはアンケート仕方です。高校生にアンケートを取るときには、同じ学校などで集計が簡単なClassを使用しました。小中学生には、低学年が読めるよう漢字に振りがなを付けました。小中学生が楽しく簡単にアンケートに答えられるようにシールをポスターに貼る式にしました。地域の方のアンケートは、地域の人全員に聞くのは無理なので街頭インタビューをしました。画像を使ってアンケートの聞く時間を大幅に減らすことができました。アンケートに答えてくれる人は多かったです。ポスターでまとめるときにアンケート結果が分かりやすくなるためにグラフを載せてました。見やすいように文字の色を変えたり、線を引いたりして遠くからも見やすくなりました。



活動で得た学び・気づき

私は、目標を達成するためにいろんな方向が物事を考えることができました。例をあげるとインタビューするためにアンケートを取ることで、高校生には、同じ高校などで集計が簡単なClass使用してました。小中学生には、低学年が読めるように漢字に振りがな付け、小中学生が楽しいくらいにアンケートに答えられるようシール式にしました。地域の方には街頭インタビューをしました。このことから私は、どうしたら多くのひとにアンケートを答えてもらえるかいろんな方向から考えることができました。班メンバーと意見を出し合い自分が思い付かない意見があっているような考え方があることを学ぶことができました。電話でインタビューのアポの仕方を学ぶことができました。電話でアポをするの初めてで緊張したけどアポの流れに沿ってうまくできていい経験になりました。町内の街頭インタビューの仕方について学びました。インタビューの流れや聞き方、話し方の方法を学ぶことができました。アカエゾマツは、上富良野町の町木です。十勝岳が噴火して泥流で上富良野町が被害にあった後に最初に生えてきた木で、上富良野町の復興のための木材として役だったことがわかりました。このことから上富良野町の歴史と町木について学ぶことができました。フラワーランドでラベンダーについて教えていただきました。ラベンダーの手入れの大変さや魅力について知ることができました。ラベンダーは、中富良野の特産物だと思っていましたが上富良野町の特産物でもありました。私がまだ知らない上富良野の特産物について学ぶことができました。

今後の展望・新たな取組み

今回の活動を通して私は上富良野町の特産物の魅力や歴史について知ることができました。このことから、これからも特産物がなくならないように今問題である地球温暖化の防止をしていきたいと思えます。そのために普段から買い物のときにエアバックを使って少しでも地球温暖化を防げるようにしたいです。カントリーサインのことを調べていろんな種類があり、その市町村の特産物や景色、キャラクターが描かれていることがわかりました。描かれている絵を見て上富良野の有名なもので私たちになじみのないものもありました。自分自身知らないものが多く、新たな発見になりました。

今回の活動を通して私は、電話でのインタビュー先へのアポや街頭インタビューの仕方、事前調査する大切さを学ぶことが出来ました。電話でのインタビュー先へのアポでは、内容事前に聞く内容を決めて置いたおかげで敬語で失礼のないよう事ができました。街頭インタビューでは、どうやったら聞きやすいかどうやったら失礼のないようにできるかを考えてやりました。その結果、声を掛けるのは緊張したけどうまく街頭インタビューすることができました。事前調査では、インタビュー先のことを調べて失礼のないようにしました。この経験から社会人の基本である電話でのアポの仕方、インタビューの仕方を学べたので将来の仕事に生かしていきたいです。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	
グループメンバー	氏名①	佐々木 海帆		氏名③	古屋 梓紗
	氏名②	坂本 ゆう		氏名④	鈴木 琉聖

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大雪青少年交流の家		修了日	2022/3/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	十勝岳ジオパークに関わる地域の素材についてインタビューを実施。そこから仮説を立ててフィールドワークにより検証し結果を発表した。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/12/16					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	上富良野高校		活動に関する助言		
	氏名	藤坂 智亜樹				
	所属	十勝岳ジオパーク推進協議会		活動に関する助言		
	氏名	十勝岳ジオパーク推進協議会の方々				
	所属					
氏名						
協力者総数	5名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 25 日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	15日	事後:ふりかえり・報告	4日
-----------	----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/20 ~ 5/18	①事前学習・打合せ等	上富良野高校	計画作成、情報収集
6/15 ~ 11/9	②実践活動本番	上富良野高校	アンケート、街頭インタビュー
9/20 ~ 9/20	②実践活動本番	上富良野高校	中間報告会と計画の修正
11/9 ~ 12/15	②実践活動本番	上富良野高校	データの整理・分析と発表準備
12/16 ~ 12/16	②実践活動本番	上富良野高校	地域探究ポスター発表会